2020年度けいじゅヘルスケアシステム業績集発刊にあたって

2020年度は年度を通じて、全国で、けいじゅヘルスケアシステムで、したたかな新型コロナウイルス感染症に翻弄された年であった。病院、クリニックの外来、さらには通所介護系施設においては5月を底に、空前の患者・利用者減を見、また同時期の手術や検査を感染防止の観点から制限した。全体の患者・利用者動向は、感染の第1波、第2波、第3波の蔓延に比例して、年度末まで大きな影響を受けた。

また、恵寿総合病院では、発熱者に対応するためにプレハブ診察室を5月早々には立ち上げ、まずは既存のLAMP法によるウイルス定量検査を、さらに年度後半には入手に難渋した新鋭PCR機器を導入して、迅速なウイルス定量検査を開始した。また、県行政の求めに応じてコロナ患者用病床を確保し、実際には12月からコロナ感染患者の受け入れを開始した。

この間、いずれの病院並びに施設からも、職員の感染、クラスターを発生させなかった。このことは、職員の自覚と緊張感の現れとして誇りたい。また、年度前半には不足する防護具（PPE）の確保と年度を通じて複雑な行政文書を読み込み丁寧な補助金・支援金の申請にかかわった本部職員の活躍も誇りに思いたい。

このようなコロナ禍の中、TQM発表大会や各種研究会・研修会など、さらには夏祭り、交流会などのイベントも中止に追いやられた。しかしながら、コロナ禍は働き方やDXを一気に推し進めてくれた。6月からはオンライン面会サービス、来院前AI問診サービスを導入したほか、院外はもとより院内・法人内の会議、委員会、カンファレンス等もオンライン化が進み、年度内に2回開催したTQM発表大会もバーチャル大会となった。また、オンライン病院見学は、地元の七尾高校、羽咋高校、門前高校の生徒を対象とした「医療へのいざないオンラインツアー」の開催や他病院からの見学依頼に対応した。さらに、リクルートのための会社説明会、面接（試験）、内定者の集いや監査法人による法定監査、PET-CT更新をはじめとする新規大型医療機器導入等にかかる商談までもオンラインで行った。

このように、2020年度法人方針“一歩前へ！”を、否応なくオンライン化という道具で進めることとなった。この経験が、“築け　未来を！～レジリエンス（困難から回復する力）を発揮せよ”という2021年度計画につながり、今年度から始まる2021-2023中期事業計画につながるものと確信する。

令和3年6月吉日

けいじゅヘルスケアシステム 理事長